

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607380		
法人名	社会福祉法人 柏仁会		
事業所名	グループホーム ありす刈和野 (けやき)		
所在地	秋田県大仙市刈和野字愛宕下85		
自己評価作成日	令和1年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和1年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥羽本線刈和野駅から徒歩5分ほどの街の中心部にあり、木をふんだんに使ったぬくもり明るく開放的な建物になっています。昔からの商店、スーパー、金融機関、病院などが徒歩圏内にあり地域の生活を身近に感じることができます。平成27年に複合施設として開所し、平成28年には1ユニット9床が増床となり2ユニット18床(けやき棟・かえで棟)での運営体制となりました。春、秋のドライブ、地域のお祭り、柏の郷夏祭りに参加し地域の方々との交流を大切にしております。多目的ホールでは障害者も高齢者も一緒に行事を楽しみ、利用者様が笑顔多く過ごしていただけるように行事企画に工夫を凝らしています。運営推進会議にも地域の方々、家族様に積極的に参加していただき、充実した会議が実施されています。利用者様、ご家族様との信頼関係を深め安心した生活が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

刈和野駅近く、昔ながらの商店が並ぶ一画に事業所はある。建物は開放的で木のぬくもりが心地良い。管理者始め職員は地域の人たちと利用者の繋がりを大切に考えており、日常の外出でも町なかで暮らす生活感を失わないよう心がけている。事業所では利用者一人ひとりの出来ることに着目し、手先の作業を行ったり、本人の趣味、好きな話題等の会話をし、利用者の生活の時間はできるだけ本人次第という。ありす刈和野は複合施設で事業所はその中において施設の特設浴槽やリハビリ機器の使用もできる。施設長は職員が福祉の枠にとらわれず柔軟に、施設全体で利用者へのサービス向上を図る事を目指している。ゆえに災害や緊急時には施設全体の協力体制が整っており、利用者・家族には心強い。「おもてなし祭り」は地域の方々がたくさん訪れ盛況である。施設から地域に発信していくことで年々地域との交流の幅が広がっているという。訪問時もスポーツレクリエーションの行事が午後に予定されており、楽しみにしている利用者の姿も見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が「自立と共生」の理念に基づき、利用者様の生活が充実できるように実践している。	福祉エリア(複合施設)ありす刈和野の理念「自立と共生」は利用者一人ひとりの持っている力を活かし、社会の中で共に生きることを重要とする。この理念は職員に深く理解されており、日常の支援や介護の場面に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校のボランティアの受け入れや、地域行事への参加、近所への買い物に出かけ交流している。毎年8月に行う「ふるさと西仙祭り」の燈籠作りも協力し地域との繋がりを大切にしている。	事業所は利用者の外出や地域行事への参加を積極的に行っており、利用者個人が地域との繋がりを持っている。施設も近隣の小中学校生ボランティアの受け入れや施設行事に地域の方々を招待するなど、地域へ発信してゆくことで地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を設置し、地域の相談窓口として受け入れたり、運営推進会議の際にも地域の方に認知症の理解や支援を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催し、介護保険事務所・家族・地域住民代表の方々も積極的に参加していただき、意見・要望を話し合っている。	運営推進会議では活発な意見交換が行われ、行政職員から事業所へ職員研修の充実についての質問の際も法人の研修計画や実施状況の説明、また研修内容の周知のための工夫(DVDの活用)を報告している。会議議題に、新人職員からの発表をもとにサービス向上への意見交換を行うなど会議の充実を図る新しい取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事務所主催の研修にも参加し、電話などでも相談しながら利用者の支援に取り組んでいる。	地域包括支援センター、生活保護担当者とは定期的に連絡を取り合い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でも身体拘束についての研修を行い、運営推進会議でも毎回議題に取り入れ全職員が正しく理解し不適切なケアがないか確認している。	施設内研修をはじめ運営推進会議でも議題に取り上げ「身体拘束をしない支援」の全職員の理解と実践への取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について施設内研修を行い、職員が目につくところに貼り紙で注意、喚起し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し関連機関との協力を得られるように連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際には十分に説明し文書にて確認を行っている。入居の際には意見、要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族・利用者様より意見、要望をいただくようにしている。意見や要望があった時は職員会議等で公表し、改善できるように取り組むようにしている。	利用者本人からの要望は日常の支援の中で聞き取り家族からの要望は面会時や電話連絡等の際に伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回、調整会議を週に1回開催し、日常業務の中で意見や提案がある場合は随時職員の意見が述べられるように取り組んでいる。	職員は管理者に意見や提案が率直に出来る関係にある。勤務時間に関する提案については各職員の意見交換の記録も確認できた。施設長と全職員のヒアリングも年1回行われており、運営に関する意見・提案も出され、行事等にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意見や要望を述べられるように個人面談を行なっている。また、施設内でコンプライアンス研修を行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保している。働きながら資格取得を目指している職員には研修を受けやすいように配慮している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの施設見学を受け入れ情報交換、交流する機会を作りサービスの質の向上につなげているように取組み行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供開始前に本人の訴えを傾聴し、職員でケアの方向性を話し合い本人の望む生活が出来るように、信頼関係が築けるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事、不安なことを聴き家族も安心できる生活が送れるような関係作りに努めている。	
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が有する能力を十分に発揮できるように出来ることは協力をいただき、信頼関係が築けるように支援している。	
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で本人の日常の様子を伝え、家族との繋がりも支援に結びつけられるように関係を築いている。	
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人からの情報より、本人の習慣や大切にしてきた繋がり、馴染みの環境、人間関係が継続できるように誰でも施設に訪問できるように配慮している。	利用者が入居前に通っていた美容院や病院を継続して使っていたり、外出時に馴染みの商店へ立ち寄るなど本人が大切にしてきた人間関係や社会との繋がりが出来るだけ途切れないよう支援している。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中は居間で過ごしており、利用者同士が常に関わりを持っている。洗濯物たたみや食器拭きなど自分達が出来たことを声掛けあって協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も経過をフォローし、いつでも家族の相談事には応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認、その人らしい生活の支援に努めている。	本人の職歴や生活歴、入居前の暮らしの聴き取りだけでなく、日常支援の中で趣味や嗜好を把握し、その人にあった時間の過ごし方をしている。本人が出来る手仕事を提供し職員も家族のように共に生活するという視点を大切にしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、利用者さんとの会話の中でも情報収集に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、申し送り記録から情報を共有し一人ひとりの現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、本人、家族からの意見・要望を伺い、関係職員と話し合い意見交換を行っている。本人の意向に近づけた介護計画書を作成している。	あらかじめ利用者本人や家族の意向を伺い、毎月担当者会議においてモニタリングを実施している。その際担当職員が利用者の状況の変化や新たなニーズなどを報告し意見交換を行っている。介護計画作成にあたっては本人のストレンクスに着目し、施設の理念でもある「自立と共生」という考えが反映されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し職員で情報を共有している。担当職員が毎月モニタリングで介護計画に沿ったケアができているか確認し、連絡ノートを活用し情報を共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店やスーパー、図書館を利用し地域での生活くお楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院の定期受診・基本健診・予防接種など行っている。協力歯科医院では入れ歯の調整や口腔ケアについての相談をしている。近くの薬局にはいつでも薬についての相談をしたり助言をいただいている。	事業所はかかりつけ医、協力歯科医院、薬局が近所にある好立地、特に事業所の真向かいにある歯科医院では入れ歯の調整等即対応してもらえる。薬局とも良い関係が築かれており、いつでも相談・助言が得られるとのこと。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が、毎日バイタル測定や利用者の健康状態を観察行っている。日常の関わりの中でも変化や気づきを看護師に報告・相談し医療との連携が迅速にとれるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院関係者と情報交換し、家族と連絡をとりながら早期退院できるように支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期のあり方については家族、本人と話し合い医療関係者、施設との連絡を密にチームでケアに取り組めるように努めている。	事業所はターミナルケアは行わない方針であるが、早い時期から本人・家族とは将来に向け話し合いを行っている。本人家族の希望により協力医院と連携し実際に看取りを行った事例もある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	毎年、救命救急研修も行っている。急変時の連絡の確認や手順は何度も確認し、実践力も身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は地域住民、地域の消防団の協力を得られるようにしている。毎年、日中・夜間想定の方針訓練を実施している。	年2回の避難訓練はありす刈和野全体で実施。火災や災害時は複合施設全事業所職員・利用者が協力し避難救助にあたることを申し合わせてあり、この協力体制は施設の強みである。また開設当初から避難訓練にも参加している地域住民の協力が得られている事も確認できた。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重しプライバシーに配慮した支援を心がけている。	排泄、入浴、着替え等介護場面での配慮の他、職員には利用者の個人情報保護、人格の尊重を徹底し教育している。新任職員は教育研修委員会が実施する初任者研修を通して学ぶ他に、日常の支援の中で適切な言葉遣い等も指導している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中でも思いや希望を尋ね自己決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や生活ペースを尊重し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みを把握し、季節のあったおしゃれを楽しめるように支援している。定期的に理容師さんが来所し整容を整えている。また、家族の協力で馴染みの美容室に出かけることもある。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房からの一括給食になっているが、月1回の給食会議では利用者さんの食事の感想や要望を伝えている。食前のテーブル拭き、食後の食器拭きなど職員と一緒に利用者も行っている。	食事は業務委託による施設全体への一括給食であるが、厨房は施設内にあり密な連携がとれている。毎月の給食会議では利用者の希望や刻み等介護食の形態についての要望にも対応されている。利用者個々の食への嗜好や希望には職員が補食の購入や外食などで満足が得られるよう努めている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養チェック表に毎日食事・水分摂取量を記入している。お茶の時間には一人ひとりの嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の清潔を保つように嗽、歯磨きを行い、就寝前には入れ歯を消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の声掛け誘導、ポータブルトイレの使用で自立に向けた支援をおこなっている。	入居時おむつ使用であった方も排泄支援を行う中でリハビリパンツ、綿の下着へと移行出来た前例などもあり、排泄チェックやこまめな排泄支援によりトイレでの排泄や排泄の自立を促す支援が行われている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、乳飲料、オリゴ糖を食事や飲み物に取り入れている。食事でも食物繊維を多く含んだ食材を使用し、体操や散歩を行い便秘への予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し本人の希望に沿って午前・午後に入浴を楽しめるように支援している。	入浴は利用者個々の好みの湯量、湯温、入浴剤などがあることを配慮し本人にとって快適な入浴を楽しめるようにと都度お湯を入れ替え対応している。また、本人の身体、健康上の状況によっては施設1階にある特殊浴槽の利用も可能であり利用者の入浴の希望がより叶えられる施設機能を有している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間の把握、室温、湿度、照明、寝具の好みに合わせ安眠、休息にむけた支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬のしおりをファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。処方の変更になったときは記録に残し、副作用や変化について医療機関に連絡するように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し本人の能力に応じた趣味活動、得意なこと、楽しみごとの継続支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人や地域の行事に参加したり個別の外出にも対応している。近くの道の駅や産直販売所など利用し地域の方々と交流を図り、家族の協力で温泉や外出にも出かけている。	利用者の意向をくみ、個別の希望に沿って外食や外出を積極的に行っている。地域の催し、花の見頃などにはドライブ外出、また近くの商店街への買い物外出、散歩の付き添いなどの対応をしていた。本人の希望によっては家族に協力を仰ぎ温泉、墓参りにも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で管理しているが、個人の能力に応じ自己管理できる範囲の金額を所持している方もいる。スーパーや近所の商店、産地直売所での買い物を楽しめるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話ができるようにしている。また、年賀状や手紙の通信支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、季節の花や飾りつけて四季を感じられるように工夫している。	訪問時はお月見をテーマに十五夜の兎や月見団子を壁に配した飾り付けがされていて、そのことを話題にすると利用者に笑顔が見られた。居間や廊下などのスペースに余裕があり、利用者の移動もスムーズ。明るく清潔、季節感にも心配りが見られ居心地の良さが感じられた。また収納倉庫や洗濯物の乾燥室が別途にあり生活空間を邪魔しない作りになっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでいつでも利用者がくつろげるようにソファの配置、利用者の席に配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で愛用していた物や家具の持ち込みで安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には利用者が自宅で愛用していた木製ベッドや筆筒など本人の希望に沿って置いている。また、家族写真や先立たれた配偶者を偲ぶ物やゆかりの物を飾るなどし、安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			